

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 29 日作成)

委員会名	温熱感WG (熱環境小委員会所属)	主 査 名 : 土川 忠浩
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会	委員長名 : 銚井 修一
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	前年度までに、温熱環境の設計目標及びそれに係わる熱環境要素・人体反応の生理心理計測法の策定について検討し、日本建築学会の研究成果として、アカデミックスタンダード化を目指してきた。その成果として、室内温熱環境測定法学会規準を策定し、あわせて室内温熱環境設計規準、温熱生理心理測定法学会規準について検討してきた。本期では、これら学会規準の策定と解説書の作成を目指すものである。	
委員構成 (委員名(所属))	主査 : 土川 忠浩 (兵庫県立大学) 石井 昭夫 (九州大学) 大倉 良司 (大阪市立大学) 梶井 宏修 (近畿大学) 藏澄 美仁 (京都府立大学) 齋藤 輝幸 (名古屋大学) 高田 暁 (神戸大学) 、 都築 和代 (産業技術総合研究所) 長野 和雄 (島根大学) 堀 祐治 (建築研究所) 宮本 征一 (摂南大学) 室 恵子 (足利工業大学) 山岸 明浩 (信州大学) 渡邊 慎一 (大同工業大学)	
設置 SWG (SWG 名 : 目的)	1. 室内温熱環境設計学会規準・解説書作成 SWG (目的は別紙活動成果報告参照) 2. 温熱心理生理測定法学会規準・解説書 SWG (目的は別紙活動成果報告参照) 3. 温熱環境測定法学会規準解説書 SWG (目的は別紙活動成果報告参照)	
2003 年度予算	18 万円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	1. 2004 年 5 月 15 日 (土) 13 名 (WG・SWG 合同会議) 2. 2004 年 8 月 29 日 (日) 16 名 (WG・SWG 合同会議) 3. 2005 年 3 月 29 日 (火) 8 名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 1. 室内温熱環境設計学会規準・解説書について、それぞれ原案を作成した。 2. 温熱心理生理測定法学会規準・解説書について、規準について原案を作成した。解説書については一部継続的検討を必要とする。 3. 温熱環境測定法学会規準解説書を作成した。 (以上、各 SWG 成果報告書参照)
	委員会 HP アドレス :
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 1. 室内温熱環境設計学会規準・解説書の原案を作成した。 2. 温熱心理生理測定法学会規準は原案を作成したが、解説書については一部検討課題が残された。次年度の温熱感小委員会での検討課題の予定。 3. 温熱環境測定法学会規準解説書を作成した。
その他評価すべき事項	特になし

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 29 日作成)

委員会名	室内温熱環境設計法学会規準・解説書 SWG (温熱感 WG ・ 熱環境小委員会所属)	主 査 名 : 藏澄 美仁
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会	委員長名 : 鉾井 修一
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>温熱環境の設計目標及びそれに係わる熱環境要素・人体反応の生理心理計測法に関する規準の策定について検討し、日本建築学会の研究成果として、アカデミックスタンダード策定を目的とする。</p> <p>具体的には、室内温熱環境設計に関わる規準のうち、室内の設計目標や評価方法を規定する室内温熱環境設計法学会規準の策定を目指す。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>主査 : 藏澄 美仁 (京都府立大学) 石井 仁 (国立呉工業高等専門学校) 輿水 ヒカル (産業安全研究所) 齋藤 輝幸 (名古屋大学) 土川 忠浩 (兵庫県立大学) 鍋島 美奈子 (大阪市立大学) 長野 和雄 (島根大学) 堀 祐治 (独立行政法人建築研究所) 山岸 明浩 (信州大学) 渡邊 慎一 (大同工業大学) 桑原 浩平 (北海道大学)</p>	
設置 SWG (SWG 名 : 目的)		
2003 年度予算	0 万円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日 ・ 参加人数)	1 . 2004 年 5 月 15 日 (土) 13 名 (WG ・ SWG 合同会議) 2 . 2004 年 8 月 29 日 (日) 16 名 (WG ・ SWG 合同会議)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p style="text-align: center;">室内温熱環境設計法学会規準および解説書の原案を作成した。</p> <p>委員会 HP アドレス :</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>室内温熱環境設計法学会規準および解説書について、ほぼ計画通り、原案を作成した。しかし、慎重な審議を必要とするため、さらに次年度温熱感小委員会での検討が必要である。</p>
その他評価すべき事項	特になし

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 29 日作成)

委員会名	温熱心理生理測定法学術規準・解説書 SWG (温熱感WG・熱環境小委員会所属)	主 査 名 : 室 恵子
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会	委員長名 : 鉾井 修一
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>温熱環境の設計目標及びそれに係わる熱環境要素・人体反応の生理心理計測法に関する規準の策定について検討し、日本建築学会の研究成果として、アカデミックスタンダード策定を目的とする。</p> <p>具体的には、室内温熱環境設計に関わる規準のうち、温熱心理生理測定法学術規準(案)の策定を担当する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>主査 : 室 恵子 (足利工業大学) 都築 和代 (産業技術総合研究所)、石井 仁 (国立呉工業高等専門学校) 梅宮 典子 (大阪市立大学)、宇野 勇治 (愛知産業大学) 兼子 朋也 (国立米子工業高等専門学校)、輿水 ヒカル (産業安全研究所) 齋藤 輝幸 (名古屋大学)、佐々 尚美 (奈良女子大学) 鍋島 美奈子 (大阪市立大学)、長野 和雄 (島根大学)</p>	
設置 SWG (SWG 名 : 目的)		
2003 年度予算	0 万円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	1 . 2004 年 5 月 15 日 (土) 13 名 (WG・SWG 合同会議) 2 . 2004 年 8 月 29 日 (日) 16 名 (WG・SWG 合同会議)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p style="text-align: center;">温熱心理生理測定法学術規準・解説書の原案を作成した。</p> <p>委員会 HP アドレス :</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>温熱心理生理測定法学術規準および解説書については、ほぼ計画通り、原案を作成した。解説書については一部継続して検討が必要である。慎重な審議を必要とするため、さらに次年度温熱感小委員会での検討が必要である。</p>
その他評価すべき事項	特になし

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 29 日作成)

委員会名	温熱環境測定法学術規準解説書 SWG (温熱感 WG ・ 熱環境小委員会所属)	主 査 名 : 宮本 征一
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会	委員長名 : 銚井 修一
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>温熱環境設計に関するアカデミックスタンダードとして、すでに室内温熱環境測定法学術規準を策定した。</p> <p>本 SWG は、この学術規準に関する解説書を作成することを目的とするものである。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>主査 : 宮本 征一 (摂南大学)</p> <p>梶井 宏修 (近畿大学) 高田 暁 (神戸大学)</p> <p>土川 忠浩 (兵庫県立大学)</p>	
設置 SWG (SWG 名 : 目的)		
2003 年度予算	0 万円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日 ・ 参加人数)	<p>1 . 2004 年 5 月 15 日 (土) 13 名 (WG ・ SWG 合同会議)</p> <p>2 . 2004 年 8 月 29 日 (日) 16 名 (WG ・ SWG 合同会議)</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的 ・ 技術的 ・ 社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p style="text-align: center;">室内温熱環境測定法学術規準に対する解説書の作成を行った。</p> <p>委員会 HP アドレス :</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p style="text-align: center;">当初の目標どおり、解説書を作成した。</p>
その他評価すべき事項	特になし